

表 2. 平成23年度実施の共催展

期間	開催地（共催機関）	タイトル
7.30～9.30	おがの化石館	秩父の大地は語る -地層と化石の物語（ドラマ）-
11.5～12.4	埼玉県自然学習センター	カエデ&もみじ
11.26～1.22	狭山丘陵いきものふれあいの里センター	森の賢者 埼玉のフクロウ展
1.14～2.19	埼玉県自然学習センター	空からみた埼玉の自然地形
3.3～3.25	深谷市川本出土文化財管理センター	深谷の化石 -化石でたどる海と陸のドラマ-
3.24～5.13	三芳町立歴史民俗資料館	武蔵野の雑木林と春の息吹
3.17～6.10	春日部市立郷土資料館	特定外来動物にご注意

館の共催展は好評をいただき、さらに実施したいとの要望により内容を変更して秋に「パート2」として実施したものですし、今年度おがの化石館（小鹿野町）で実施した展示も好評で期間を延長しました。県内市町立博物館の多くは歴史・民俗が中心ですので、これまで自然系の展示はあまり実施されてこなかったと考えられます。そこで実施した自然系の展示は来館者の興味を引いたのではないかと思います。それが同じ博物館で共催展が継続実施されている理由の一つだろうと思います。また、共催展では単に展示だけではなく、この企画にあわせた観察会や講演会などの普及事業を行うこともあります。これらも影響を与えているのかもしれませんが。

しかし、一方では、開催している地域が埼玉県全体にまで広がっていったいないとも言えます。共催展ではどうしても、夏休みや秋などの同じ時期に、同じテーマや似たテーマでの希望が重なったりします。使用できる資料の問題もあり、これらを解決するのは難しい面があり、また、共催展を1年に多数開催することは時間的にも難しいものがあります。そのため、限られた資源と時間を有効にできるよう調整をしながら実施してきました。

自然の博物館は建築後30年を経過し、施設の老朽化がみられるようになりました。施設改修のため、昨年9月から今年秋まで休館し、10月6日にリフレッシュオープンします。観察会などのイベントや出張事業、他から依頼された講師の対応などはこれまでと変わらず実施していますが、さすがに展示を見ていただくことはできません。そこで、休館中に多様な展示を計画しました。

例えば、県立の博物館施設（歴史と民俗の博物館、さきたま史跡の博物館、嵐山史跡の博物館、近代美術館、文書館）の協力で、小さいながらも自然の博物館紹介のミニ展示を開催しています。この事業は来年度も継続しますし、各県立博物館でイベントも実施します。

それとは別に、市町立博物館や自然関連施設などと共催展を開催しています。すでに終了したものもありますが、合計7回の展示を行います（表2）。今回の共催展では、これまで実施していなかった地域の博物館などで開催するように努めました。そのため、すべての施設、地域が初めての開催となっています。開催テーマもできるだけその地域と関連のあるものを取り上げています。どのように展示されるかは見てのお楽しみです。現在開催中のものもあれば、来年度まで継続して実施するものもあります。関連の普及事業も実施しますので、是非お出てください。また、来年度も、既に夏に共催展を実施することが決定しています。ただし、10月にリフレッシュオープンが待っていますので、今年いっぱいには現在計画されている以上の共催展を実施するのは、大変難しい状況です。

今後、これまで実施していなかった地域や機関での共催展が開催できないか模索していきたいと思っています。

共催展や関連事業の詳しい情報は、当館ホームページに掲載します。もしかしたら、お近くで開催しているのかもしれませんが。ご確認いただき、是非お出かけください。

（なかむら おさみ・学芸主幹）